

「頭の中が一番広い」

夏目漱石の「三四郎」の中に、次のような一節があります。

『「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より……」でちょっと切ったが、三四郎の顔を見ると耳を傾けている。

「日本より頭の中の方が広いでしょう」と言った。「とらわれちゃだめだ。いくら日本のために思っただって鼻^{ひいき}の引き倒しになるばかりだ』

三四郎が熊本から東京に向かう汽車の中で一緒になった男の言葉です。

熊本 東京 日本 頭の中と繋^{つな}がる発想は、日本全体のことや海外事情を頭の中で想像するしかない明治期の時代背景も感じさせますが、人間の脳の無限の可能性を示唆してくれているようで元気が出てきます。そして、同時にどうしてもささいな身内の事情にとらわれがちになる我々の思考は、かえって「鼻^{ひいき}の引き倒しになるだけだ」と戒^{いまし}めてくれているのです。

すべての人の頭の中は、生きている限り、それぞれが無限大に広いはずですが、だって、頭の中では毎日違う景色が見られるのですから。

その頭の中と同じくらい広がってきたと思われるのが、インターネットの世界です。特に、グーグルという「世界中の情報を組織化する」ことをミッションとして自らに課している会社（注）が出現してからは、異次元の段階に入ってきたような感があります。

例えば「グーグル・アース（Google Earth）は、我々のパソコンの中に巨大な地球儀と天空から地上を見るズーム付望遠鏡、それに自分の家の屋根瓦まで識別できる顕微鏡を備えているようなものです。しかも、それが無料で提供され、世界中のどこでも住所やキーワードで自動的に天空からズーム・インしてくれるから驚きなのです。インターネットの高度化により、パソコンの中も相当広いものになってきています。

でも、パソコンは、思い悩んだり、ひらめいたり、夢を見たりはできません。やはり、私達の頭の中が一番広いのではないのでしょうか。

読書の秋です。本を読むことにより，秋の澄み切った青空のごとく，更に頭の中を広々とさせてみませんか。

(注) 参考・「ウェブ進化論」梅田望夫 2006年ちくま新書